

分析結果報告書〔 2 〕 1 / 2

1 . 2 排水試料(全窒素)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1 . ISO 9001 ~ 9003 2 . ISO 14001 3 . ISO/IEC 17025(ガイト'25) 4 . M L A P 5 . 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	() 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()

回数	分析結果 (mg/L) 注 1)	検出下限値未満での検出下限値 注 3)
	検出下限値以上 注 2)	
1 回目		
2 回目		
3 回目		

注 1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注 2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字 3 桁で記入する。

注 3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字 1 桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1 . 総和法 2 . 紫外吸光光度法 3 . その他 ()
使用した水	1 . 蒸留水 2 . イオン交換水 3 . 超純水 4 . その他 ()

< 総和法 >

「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の分析」

試料量	() mL
留出液量	() mL
留出液の分取量	() mL
測定波長	() nm
分析結果 (硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素)	1 回目 () mg/L 注 4) 2 回目 () mg/L 3 回目 () mg/L

注 4) 分析試料中の濃度を示す。検出下限値未満では「ゼロ (0) 」と記入する。

「アンモニア性窒素及び有機性窒素の分析」

試料量	() mL
留出液量	() mL
留出液の分取量	() mL
測定波長	() nm
分析結果 (アンモニア性窒素及び有機性窒素)	1 回目 () mg/L 注 4) 2 回目 () mg/L 3 回目 () mg/L

注 4) 分析試料中の濃度を示す。検出下限値未満では「ゼロ (0) 」と記入する。

< 紫外吸光光度法 >

試料の希釈	希釈倍率 () 注 5)
試料 (又は希釈した試料) 量	() mL
分解瓶の種類	1 . 四ふっ化エチレン樹脂製の瓶 2 . 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3 . その他 ()
容量	() mL
測定波長	() nm

注 5) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

分析結果報告書〔 2 〕 2 / 2

< 検量線の作成等 1 >

測定対象	1. 総和法の「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」 2. 紫外吸光光度法 3. その他()
標準液濃度の表示	1. 窒素(N) 2. アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺) 3. 硝酸イオン(NO ₃ ⁻) 4. 亜硝酸イオン(NO ₂ ⁻) 5. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() μg ~ 最大() μg ()
試料の指示値	1回目() 2回目() 3回目()
空試験の指示値	()

< 検量線の作成等 2 >

測定対象	1. 総和法の「アンモニア性窒素及び有機性窒素」 2. その他()
標準液濃度の表示	1. 窒素(N) 2. アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺) 3. 硝酸イオン(NO ₃ ⁻) 4. 亜硝酸イオン(NO ₂ ⁻) 5. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小() μg ~ 最大() μg ()
試料の指示値	1回目() 2回目() 3回目()
空試験の指示値	()

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--